

年の初めを彩る作品

オリジナルポスター寄贈

迫町下舟丁出身の書家・デザイナーの日野薫さんが1月16日、市役所を訪れ、今年の干支を題材に自らデザインしたポスターを市に寄贈しました。

日野さんからポスターが贈られるのは今年で11年目。ポスターは毎年市役所迫庁舎の入り口などに掲示し、来庁者の目を楽しませています。日野さんは「新春や新緑を感じられるよう温かで爽やかな色味で仕上げました。見た人に新鮮な気持ちになってもらえたらうれしいです」と話しました。熊谷市長は「私も卯年生まれ。ポスターに描かれた卯の文字を心に刻み飛躍の年としたい」と語りました。



ポスターを寄贈した日野さん(右)。ポスターは市役所迫庁舎の入口に掲示しています。

安全への誓い新たに

消防団など出初式を実施

市交通安全指導隊(工藤見良隊長)、市防犯指導隊(菅原精一隊長)と市消防団(菅原英義団長)が、市民の安全・安心を守る誓いを新たに、出初式を実施しました。

両指導隊の合同出初式は1月7日、中田総合体育館で開かれ、隊員ほか約100人が参加。熊谷盛廣市長らから服装などの点検を受けた隊員は、新年の活動に向けて気持ちを引き締め、結束を高めました。また、消防団の出初式は1月8日、登米祝祭劇場で開かれ、団員約400人が参加。団員らは、地域の防災リーダーとして防災への意識を高めるとともに一年の防火の思いを新たにしました。



消防団出初式で式典後に行われた団員による一斉放水では、大勢の観覧者から歓声が上がりました。

市の未来を想像して

未来新聞コンクール開催

「第15回子どもたちが考える登米市の未来新聞コンクール表彰式」は1月22日、南方農村環境改善センターで開かれ、市内小学校から応募のあった88作品の中から入賞した作品を制作した8グループが表彰されました。

新聞は、自然、農業、食、伝統文化などさまざまなテーマで制作。細やかな情報と自由なアイデアがあふれる素晴らしい作品がそろいました。最優秀賞を受賞した新田小6年の皆さんは、新田駅の歴史や課題、未来へ向けての提案などを1枚の新聞にまとめ、ステージ発表では「私たちの考えた提案が実現して、活気があふれ、人のつながりを感じられる地域になってほしい」と話しました。



小学5年生部門最優秀賞の米川小の皆さん。「大好きな地元の伝統芸能を広く伝えたい」という思いを込めて新聞を作りました。

熟練ガイドがご案内

体験通して魅力を再発見

「みやぎの明治村体験型歴史探訪」(宮城県、とよま振興公社共催)は1月8日、市内の高校生を対象に開かれ、教育資料館や武家屋敷通りなどを巡りました。

歴史探訪は、県制150周年記念事業として、郷土へのさらなる愛着の醸成や地域の魅力の再発見と発信をテーマに企画。参加者は明治時代の衣装を身に付け、教育資料館や地域の歴史について説明を受けた後、春蘭亭で抹茶をたてる体験をしました。とよま振興公社の佐藤康取締役営業部長は「体験を通して若い皆さんに地域の見どころをもっと知ってもらい、魅力ある登米をたくさん発信してほしい」と話しました。



参加者は「登米町の歴史や魅力を知ることができた。この魅力を多くの人に知ってほしい」と話しました。

児童が共生社会学ぶ

宝江小でパラ選手が講義

「あすチャレ！スクール」(日本財団パラスポーツサポートセンター主催)は1月24日、宝江小学校(熊谷みち校長、児童138人)で開かれ、3年の児童20人が北京パラリンピック女子ゴールボール日本代表の高田朋枝氏から出前授業を受けました。

授業はパラスポーツの体験やパラアスリートの講話を通じて障がいに対する理解を深め、自分に何ができるか考える機会とするのが目的。児童は「目隠しをしたら暗くて怖かったので、障がいがあるのは大変なことだと分かりました。みんな平等に仲良くしていけるといいと思います」と話しました。



パラスポーツを通じて楽しみながら障がいということに触れ、自分が明日からできることを考えるきっかけになりました。

厳かに無病息災祈る

佐沼でどんと祭と裸参り

「佐沼どんと祭・裸参り」(登米中央商工会青年部主催)は1月14日、一市・八日町通りなどで開かれ、裸参りには地元の商工会青年部や市内の企業、団体などから54人が参加しました。

どんと祭・裸参りは、地域の活性化や住民の無病息災などを祈ろうと昭和54年から始まり、今年で45回目を迎えました。裸参りに参加したとめ青年会議所の猪股圭太郎さん(33)＝迫町光ヶ丘東＝は「家族が健康に過ごせるようにということと、コロナ禍で中止になったり自粛したりしているイベントの復活を願いました」と話しました。



さらしや白装束姿にたいまつを持った参加者は、平穏な一年を願い、ゆっくり歩みを進めました。